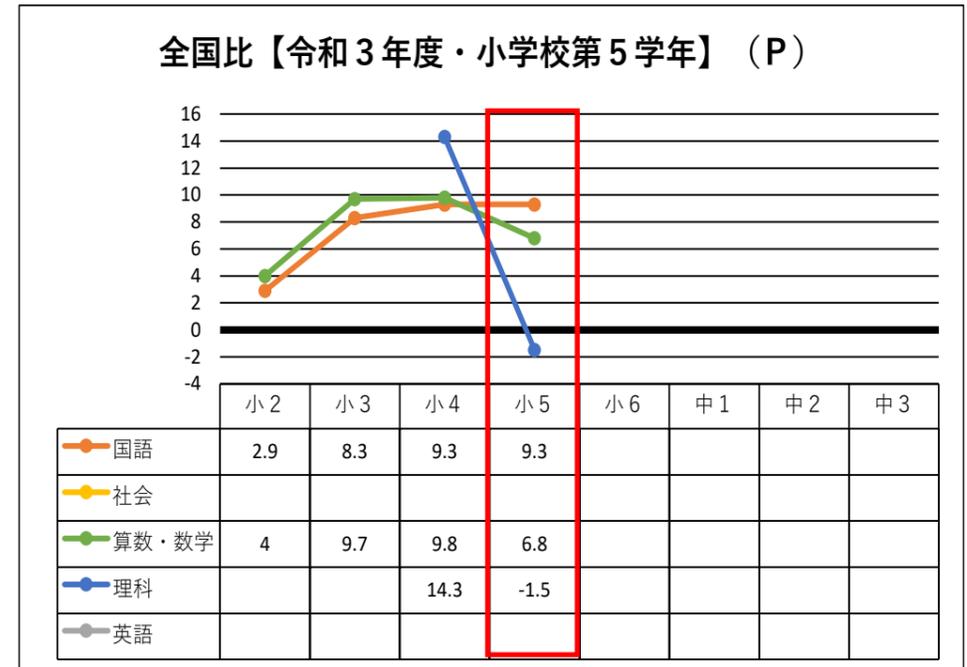
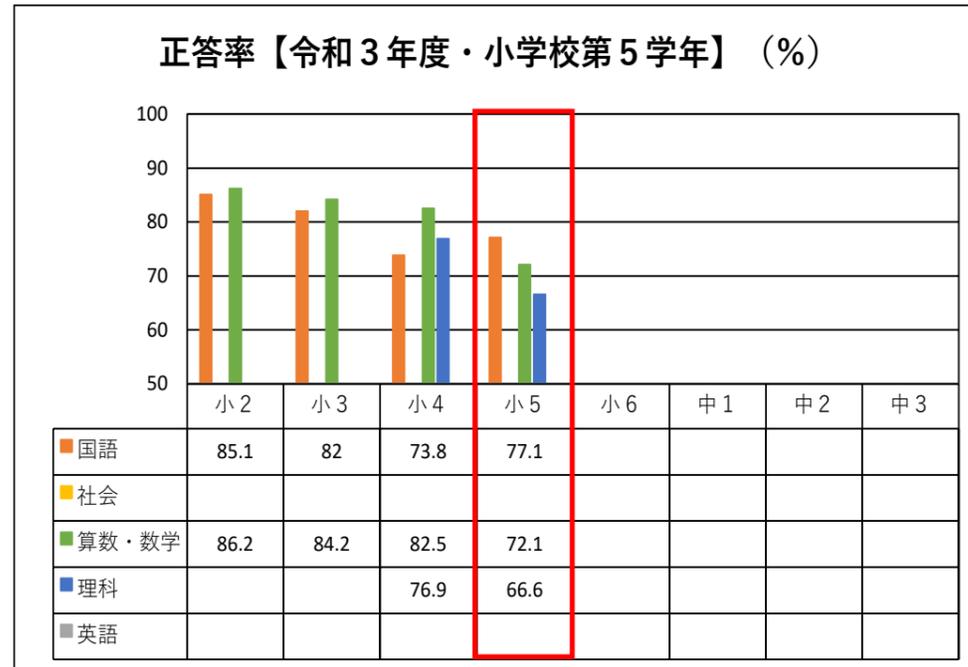
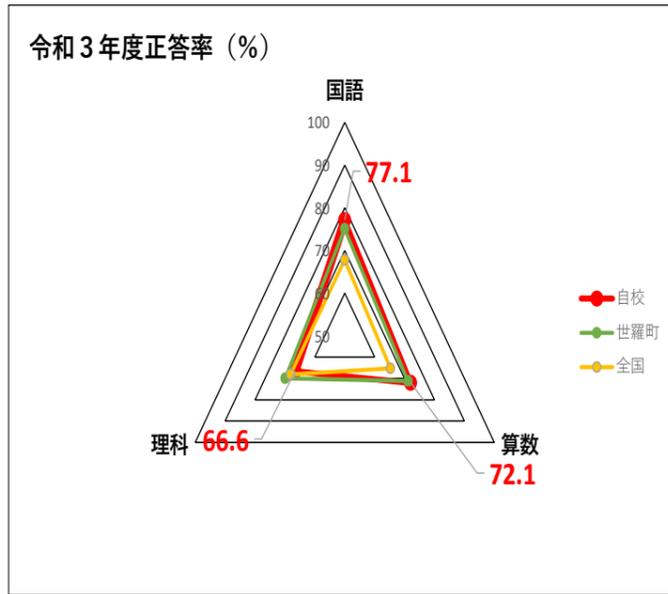


令和3年度標準学力調査 指導方法等の改善計画【せらにし小学校 第5学年】



教科	正答率 (%) 【全国比 (P)】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	自校正答率 【全国比】	児童の誤答の傾向と分析 (○)、教育指導上の要因分析 (●)	課題改善のための＜指導場面 (指導時期)＞と具体的な取組	目標値	検証値 【4月調査比】
国語	教科全体	77.1【+9.3】	知識・技能 3(2) 連用修飾語について理解している。＜小学校3・4年知技(1)力＞	33.3% 【-9.1P】	○「来週」がどこを修飾しているかについて、「体育館」を選択する傾向が見られた。主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係について捉えることができなかったためと考えられる。 ●修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解させることの指導が不十分であった。	＜文学的な文章の授業、説明的な文章の授業(9月・10月)＞ 文を読むときに、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について、また、文の書き出しと文末表現の関係などを含めた文の中の語句と語句との係りを意識しながら読むよう継続して指導する。 ＜自主学習(通年)＞ 毎週、自主学習で新聞記事を読み、それを要約したり、自分の思いや考えをまとめて書く活動を継続し行うことで、文の中でそれぞれの語句の役割等を意識しながら読むことに慣れさせる。	正答率 90%	% 【P】
	知識・技能	73.5【+4】						
	思考・判断・表現	78.0【+16.4】						
	主体的に学習に取り組む態度	78.5【+23.5】						
算数	教科全体	72.1【+6.8】	思考・判断・表現 18(2) 2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明している。＜小学校4年D(1)イ(ア)＞	30.8% 【+5.0P】	○誤答の児童全員が、折れ線グラフの8月に着目することはできているが、理由が不十分であった。的確な言葉や折れ線グラフの数値を使って説明することができなかったためと考えられる。 ●折れ線グラフの特徴を理解し、線の傾きで変化の様子を捉える指導が不十分であった。また、児童が出した結論について、「本当にそうだろうか。」「グラフのどこを見ればよいか。」などの問題意識から、二つのグラフをより詳しく比べて読み、判断したことを伝え合う指導が不十分であった。	＜円グラフや帯グラフの授業(1月)＞ 児童にとって身近な興味や気付きなどから、判断や考察したい事象を問題場面として設定する。データの種類や項目の数を考え、目的に応じて適切なグラフや表に表すことで、データの特徴や傾向をつかみ、判断していけるように指導する。また、自分たちが出した結論やデータについて、別の観点から見直すことを指導していく。	正答率 90%	% 【P】
	知識・技能	75.8【+7】						
	思考・判断・表現	58.8【+6】						
	主体的に学習に取り組む態度	58.2【+6.2】						
理科	教科全体	66.6【-1.5】	思考・判断・表現 8(1) ②実験の結果をもとに、手作りの噴水の原理を推測することができる。＜小学校4年A(2)イ＞	23.1% 【-22.4P】	○閉じ込めた空気を圧縮すると、体積は小さくなり押し返す力が大きくなる。しかし、水は、押し縮めることはできない。これらを混同している。 ●閉じ込められた水は、空気と違って押し縮めることはできないことを実験を通して教示しているが、おさえきれていない傾向にある。	＜とじこめた空気や水の授業(9月)＞ 閉じ込めた空気や水を押し縮める実験の際に、考察とまとめをしっかりと書きとらせる。また、視覚的に分かりやすいよう着色させる等、違いをはっきりと掴ませる。	正答率 60%	% 【P】
	知識・技能	73.3【-2.9】						
	思考・判断・表現	59.5【0】						
	主体的に学習に取り組む態度	74.6【+13】						